

おがまち日奈久ニュース

市政協力員 10年目表彰

山本一樹氏（新開町）
宮永悟氏（中西町）

市政協力員として、10年の長きにわたり活躍されたお二人の表彰が、日奈久コミセンで行われました。11月13日（金）、市政協力員例会のとき、お二人の紹介がありました。長い間本当にお疲れでした。今後とも元気で活躍されることを。う。おめでとございしました。



左が山本氏（新開町）
右が宮永氏（中西町）

鎮座601年 温泉神社例大祭 開催

温泉神社は、日奈久温泉が発見された10年後（応永29年・1419年）に、現在のばんべい湯の近くに小さな社殿を築かれたのが始まりです。その日を記念して11月15日に例大祭が開催者のみで行われました。今年はコロナ禍のため神事のみで開催で、毎年楽しみにしている各町内参加の演芸は中止でした。



「紅白のお供え餅」を関係者と請前町内（東町）で準備しました

東正孝氏（塩北町）

令和2年度八代市環境美化推進善行者表彰受賞

東氏は、4年前に熊本市から日奈久塩北町に転入され、暑い日も、寒い日も毎日のように自宅周辺や隣の空き家の除草、周辺側溝等の清掃活動をされて、環境美化推進に日々努力して来られました。

表彰は、10月29日（木）に日奈久コミセンで行われ、東氏は、「何の気なしに始めたことだったが、皆さんのためになっているということがうれしく、表彰までしてもらったことに感謝申し上げます。これからも頑張ります」と話されました。



右から桑原環境部部長、東氏、里木校区長



献饌（お供え物）を神前にて小林宮司と上野東町氏子総代

15日は、透き通る青空が拡がり、本殿からは天草の島々が美しく見えました。厳かな神事が執り行われ、小林宮司が、祝詞の中で流行病の終息と平穏な生活の到来を願われました。東町氏子総代の上野浩之さんは、「日奈久の伝統であるこの祭りを大切に守り続けなければならぬ。コロナ禍で神事のみとなったが、来年は無事に行えるよう前向きに考え、健康に留意して生活していきたいと思ひます」と感慨深げでした。

令和2年12月号
（第136号）
発行者
日奈久住民自治会

日奈久の人口
（10月末現在）
男 1156人
女 1402人
計 2558人
（前月比-11人）
（2009年末3444人）

「ありがとう」が
行き交うまち 日奈久
身近な人に「ありがとう」
贈る日奈久に「ありがとう」
訪れる人に「ありがとう」

日奈久の湧水を知っていますか？ ひこいちテレビからの取材



おいしい水をみんなで試飲

今回、ひこいちテレビから日奈久の名水を紹介して欲しいとの依頼があり、11月6日午前10時に地元関係者が集合しました。

制服の寄付

ありがとうございます

東町の谷川富香様より中学校に制服の寄付がありました。「倉庫を片付けていたら男子用制服が6着出てきました」とのこと、中学校に連絡があり、三輪教頭先生が受け取りに行き、「転入生やいろんな場面で活用させていただきます。ありがとうございます」と御礼を言いました。



寄付された男子用制服



みんなでゴミや雑草を拾い集めながら移動しました

10月26日秋晴れの中、小中学校合同クリーン作戦に、婦人会からも28名が参加しました。通学路を3方面に分かれて、ゴミや雑草等を拾い集めました。新型コロナウイルスの影響でしょうか、ゴミは少なかったように感じました。一時間あまりでしたが、子ども達と一緒に日奈久の町を綺麗にできると有意義でした。【ゴミは持ち帰りましょう】

婦人会だより

交通安全母の会のメンバーが集まって調査をしました



交通安全母の会のメンバーが集まって調査をしました

12月の行事から

【住民自治会関係会議等】
11日（金）市政協力員例会
15日（火）運営委員会
18日（金）広報部会

鹿や猪が出没しています。
ご注意ください。

交通安全母の会より

大坪町 橋本 都

◎ 日没が早いです。
・自動車（自転車）の点灯を早めにして。
・道路を歩く人は、白色の服を着用したり、反射材の付いたものを身に付けたりしましょう。
◎ 10月20日は、午後4時から一時間「いこいの広場前」で、市内一斉の「ながらスマホ調査」をしました。運転しながら、歩きながらスマホをしている人はいませんでした。「ながらスマホ」は厳罰化されています。安全運転をよろしくお願いいたします。



塩南町には、ベッドのマット等が捨てられていました。（中央の白い物）

住民自治会運営委から
11月16日（月）開催の運営委員会から、記事として扱っていない主な事項についてお伝えします。
○町内連絡委員会
・不法投棄が続いており、大変困っている。

日奈久歴史探訪 天明の大火事と復興援助

八代市立博物館で「鳥居家資料」が展示されました。その中に、江戸時代の天明年間に起きた日奈久の大火災に際し、管轄外の芦北郡湯浦手永の惣庄屋鳥居理右衛門が駆けつけ、家の修理、材木や品物や人夫を提供して災害復旧に協力したことを細川家の奉行が賞し、褒美を与えた書状がありました。「災害が起こると、昔も今のように助け合っていた」と、観覧した山下町の光本照夫さんは感

慨深くその言葉に感動しました。日奈久では、大火災が何度も発生しています。書状にある火災は天明4年（1823）、93戸が焼失しています。その後も文化9年（1812）には215戸、同14年（1817）には134戸、弁天社（後の温泉神社）も罹災しました。当時は約300戸の温泉町でした。火災の恐ろしさをまざまざと見せつけられた町民達は、天保3年（1832）駿河国（静岡県）秋葉山の鎮火の神様秋葉神社の分霊を勧請して温泉神社の奥山に祀りました。大火は安政6年（1853）にも発生し93戸が焼失しています。

（広告欄）

